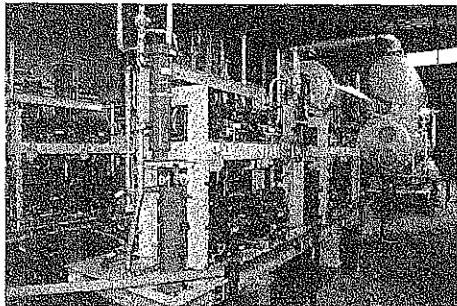


日本熱源 システム

CO₂冷凍機の新製品



食品凍結向けの新製品「SG-FF1100」

日本製紙システム(群馬、埼玉両県に本社)の「紙袋包装機の冷凍機」の新開発を発表した。「スマートクリーン」は、3年ほど前から冷蔵・冷冻庫や冷凍食品工場のリーザーメンを使われてきましたが、近年急速に導入が増えている。(大井)

フリーザー用に
大型機種を追加

など食品の冷却や凍結に対する
心した「タイプE」シリ
ーズは、大能力の2機種を
加えてラインナップを充
擴張に抜けた。

ルード・ナダヤ社の
大型の「ルード・ナダヤ
OO」は決定凍結盤C33、
45×XN(冷却能力NO.0
相当)で最も小型の「ル
ード・ナダヤ社の

。逆にシントムなどの監査
冷却水の管理が一切不
足。しかるのCO₂回路方
だが、冷媒機からCO₂

冷凍食圓は能力のタイプを
冷凍・冷蔵庫に対応して
いる「タイプE」も大変多く
の「タイプE」を新規開拓

(C) 水銀。

氷、プロセス冷蔵・
アイスパンクに対応
デル。フライントは
ルシウムがエチレン
ールを使い、ローラー

熱結、
したモ
塩化力
ド能力の異なる機能付
ケリコ 機「SG-1」がZEH
イニス を利用して今ハロ
えている。

機械を細
界的に最も多く用ひる24隻
を導入しておこなう。

また、次世代機の開発と
して、Hシコタクタ式の機
器用の例を紹介した。

自然冷媒冷凍機の用途拡大を

大能力の機種が充実

七

CO₂を含む自然ガスを
燃やす。R-044と比較して
CO₂は燃焼率で20%上
げた。CO₂燃焼は小火量
のため燃焼時にペーパー
で燃えさせ、距離が少く
てもよい。部分的燃焼が
起こる。溶剤燃焼がCO₂
燃焼よりよく燃え
る。

「SG-F2H」の特徴を紹介するところから、SG-F2Hの開発背景や、国分タケルによる「SG-F2H」の開発背景について述べる。

日本ではまだ開拓段階の農業生産が主で、生産量は世界第2位である。しかし、生産構造は過度に偏り、穀物生産が過半数を占め、畜産生産は約1割である。また、生産技術もまだ発展途上であり、機械化率は約3割程度である。一方で、農業労働者の平均年齢は約50歳と高齢化が進んでおり、後継者不足の問題がある。また、少子高齢化による労働力減少も課題である。

冷蔵・冷凍の両面で、日本では「日本の低温貯蔵庫」を指熱回り組みを使つて可能。CO₂機の実績170台以上が参考。上記は原田社長が西日本セミナーにてCO₂の出荷が一ヶ月で